

若年層に対し、福祉の現場で悩みや葛藤を抱えながらやりがいを持って働く若手職員が福祉の仕事のPR活動を行うことで、福祉分野への就労意欲の喚起を行う。

## 現状

- 福祉・介護の仕事に対して**ネガティブイメージ**を持っている者の割合が、依然として高い。
  - 特に、若年層が、福祉・介護の仕事をやりがいがあるものとイメージできていない。
- ※ 福祉・介護の仕事に対するイメージ（R3福祉保健基礎調査）
- 「体力的・精神的にきつく、仕事の内容のわりに給与水準が低い仕事」 **56.8%**(20代では62.8%)
  - 「人の役に立っていることが実感できる仕事」 19.2%(**20代では15.1%**)



## 実施内容

- **若手職員のリアルな声により福祉の仕事の魅力をアピール**し、若い世代の共感を得られるよう、情報発信していく。

【主な発信内容】

なぜ福祉の仕事を選んだか

現場での体験

福祉の仕事のやりがい・魅力

近年の処遇改善の状況

取組内容	主な対象者	手法等
若手職員等を活用した福祉職場への就労に係る魅力のPR	若年層	福祉現場の「今」を伝える動画の作成 大学生・専門学校生等の若年層を対象とするイベント等で魅力をPR
SNS・インターネット広告の活用	若年層～転職希望者	既存のSNS・インターネット広告を活用し、コンテンツにPR動画（若手職員の活動内容やコメント等）を掲出することで、若年層向けの情報発信を強化

## 効果

- 就職活動を行う若年層に対し、現場で悩みや葛藤を抱えながらも、やりがいを持って福祉の仕事に取り組む若手職員が自らの言葉で福祉の仕事の魅力を伝えることで、**福祉分野への就労意欲の喚起**を行い、逼迫する福祉現場の人材の確保につなげていく。